

令和8年度 第1回春日部市市史編さん委員会

日時：令和8年9月30日(水) 午後2時00分～

場所：春日部市役所本庁舎 4階 委員会会議室

次第

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ
- 4 委員及び事務局職員自己紹介
- 5 議事
 - (1) 委員長・副委員長の選出について・・・・・・・・・・・・・3
- 6 報告
 - (1) 令和7年度事業報告について・・・・・・・・・・・・・4
 - (2) 令和8年度事業計画について・・・・・・・・・・・・・41
- 7 その他
 - (1) 第2次春日部市市史編さん事業計画（第2期）について・・・・・・・・・・44
- 8 閉会

春日部市市史編さん委員会委員名簿

	氏名	選任区分	備考
1	ありま ひろみ 有馬 廣實	1号委員	社会教育委員
2	はまじま かずなり 浜島 一成	2号委員	文化財保護審議会委員
3	いいづか こうじ 飯塚 耕治	3号委員	牛島小学校校長
4	いたがき ときお 板垣 時夫	4号委員（学識経験者）	埼玉県文化財保護協会 副会長
5	いのうえ かおり 井上 かおり	4号委員（学識経験者）	埼玉県立歴史と民俗の博物館 主席学芸主幹
6	いわさわ ひろこ 岩澤 浩子	4号委員（学識経験者）	幸手市郷土資料館 学芸員
7	たかはし ひさお 高橋 尚夫	4号委員（学識経験者）	大正大学名誉教授
8	たなか ひろこ 田中 裕子	4号委員（学識経験者）	前さいたま市岩槻人形博物館館長
9	ひらこそ さだお 平社 定夫	4号委員（学識経験者）	元埼玉県立岩槻高等学校教諭
10	おおかわ あきひろ 大川 明弘	5号委員 （公募に応じた市民）	公募に応じた市民

任期：令和8年8月1日～令和10年7月31日

春日部市教育委員会教育長

鎌田 亨

事務局

社会教育部長

関根 栄治

社会教育部次長

井崎 圭介

文化財課長(兼)

實松 幸男

郷土資料館長（学芸員）

文化財担当主幹(学芸員)

成川 雅夫

主幹(学芸員)

越智 俊夫

主査(学芸員)

中野 達也

主任(再任用)

神田 俊一

主事(学芸員)

新井 翠

主事(学芸員)

小林 楓

主事(学芸員)

山下 知穂

議事（１）

委員長・副委員長の選出について

春日部市市史編さん委員会条例第５条第１項の規定に基づき、委員長及び副委員長を選出するものです。

委員長	
副委員長	

春日部市市史編さん委員会条例（抜粋）

（委員長及び副委員長）

第５条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを決定する。

２ 委員長は、会務を総括し、委員会を代表する。

３ 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときにはこれを代理する。

（会議）

第６条 委員会は、委員長が招集し、会議の議長となる。

２ 委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

３ 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

報告（１）

令和７年度事業報告について

（１）『春日部市史自然誌編』の活用

『春日部市史自然誌編』を活用した「地学さんぽ」講座を１回実施

5/11 首都圏外郭放水路「龍Ｑ館」レジデンシャルパーク SHOWA（庄和総合公園）
22名参加

（２）地域資料の収集

歴史資料として重要な公文書：37箱 673点を収集

行政作成物：4箱 229点を収集

（３）『春日部市史石造物編』の刊行に向けた調査

『春日部市史石造物編』の刊行に向けて市史編集員（調査員）による石造物調査を実施、調査開始に向けた会議５回、市内石造物巡見３回、見学１回、石造物調査７件

１．『春日部市史 石造物編』について

第２次春日部市市史編さん事業計画（第２期）の計画および別表（資料１参照）

２．石造物部会による調査活動

ア．石造物部会

- ・板垣 時夫 監修者 埼玉県文化財保護協会副会長
- ・諸岡 勝 調査員 元埼玉県立文書館副館長、足立区文化財保護審議会委員
- ・広瀬 純 調査員 吉川市教育委員会生涯学習課資料取扱員（学芸員）
- ・菅 真由美 調査員 吉川市教育委員会生涯学習課資料取扱員補助（学芸員）
- ・谷口 久子 調査員 松伏町町史調査協力員、松伏町発掘整理補助員

イ．令和７年度から現在までの調査活動状況

月 日	内 容
令和７年 ５月１５日（木）	第１回春日部市市史石造物部会 （１）春日部市市史編さん事業について （２）石造物の調査対象について （３）石像物調査カードについて

6月12日(水)	春日部市市史石造物部会巡見（粕壁地区） （１）拓本の実演による講習 （２）粕壁地区内の寺社の巡見
7月9日(水)	春日部市市史石造物部会拓本調査(内牧地区) 廃棄予定の石造物2基の記録保存調査
7月10日(木)	第2回春日部市市史石造物部会 （１）石造物の調査対象について （２）石造物の分類について
7月11日(金)	春日部市市史石造物部会拓本調査(内牧地区) 郷土資料館所蔵の板碑および内牧地区庚申塔拓本採取
10月17日(金)	春日部市市史石造物部調査打合せ
10月30日(木)	春日部市市史石造物部会巡見（武里、豊春地区）
11月13日(木)	春日部市市史石造物部会巡見（内牧地区）
12月1日(月)	春日部市市史石造物部会調査（原新田浅間社内石造物の事前清掃）
12月7日(日)	春日部市市史石造物部会調査（原新田浅間社内）
12月13日(土)	第3回春日部市市史石造物部会視察 野田市郷土資料館「野田の浅間様～石に刻まれた富士山への祈り～」展見学
令和8年 1月15日(木)	春日部市市史石造物部会打合わせ 調査票等の入力方法について
1月29日(木)	春日部市市史石造物部会調査（内牧地区原新田 不動尊）
2月19日(木)	春日部市市史石造物部会調査（梅田神明神社事前調査）
2月28日(木)	春日部市市史石造物部会調査（梅田神明神社調査）
3月2日(月)	春日部市市史石造物部会調査（内牧鷲香取神社調査事前調査）
3月8日(日)	春日部市市史石造物部会調査（内牧鷲香取神社調査事前調査）
3月25日(水)	春日部市市史石造物部会調査（梅田日枝神社事前調査）
4月2日(木)	春日部市市史石造物部会調査（梅田雷電神社調査）
4月16日(木)	春日部市市史石造物部会調査（梅田女体神社調査）
5月7日(木)	春日部市市史石造物部会調査（内牧楽応寺調査）
6月4日(木)	春日部市市史石造物部会調査 （内牧藤盛稻荷、梅田円乗院、梅田寺調査）
6月4日(木) 7月2日(木) 7月21日(火)	春日部市市史石造物部会調査（内牧香林寺調査）

※調査の様子などは、文化財課のブログ「ほごログ」で情報発信。

ウ. 石造物の調査対象について

- ・ 神社、寺院、堂庵、集会所、公共施設、路傍の石造物とする。
- ・ 石材で製作された物で、信仰遺産、中世石造物、記念碑などを調査対象とする。
- ・ 原則として造立年代は平成の終わり（2019）までとする。
- ・ 個人の敷地内にある石造物については、現時点では対象外とする。
- ・ 墓石について（個人墓石は原則として調査対象外、俳人の墓石や、宿場や地域の草分けとなった人物の墓石などは対象とする。）

エ. 進捗状況

内牧地区では、神社、寺院での調査を終了。堂庵、集会所、公共施設、路傍の石造物の調査を令和 8 年 10 月から開始予定。現在、過去の調査地点の資料整理、編集、確認と 10 月から調査する地点（50 か所程度）の事前確認を実施中。

（4）調査成果の活用

- ・ 春日部市市制施行 20 周年事業

『春日部市 20 周年の歩み』を市公式ホームページへ掲載



春日部市市制施行 20 周年事業 「春日部市 20 周年の歩み」QR コード

- ・ 「広報かすかべ」に「かすかべ今昔絵巻」を連載

令和 7 年

広報かすかべ 5 月号 春日部駅西口の整備

広報かすかべ 6 月号 馬車鉄道の開通

広報かすかべ 7 月号 かすかべの文化財 vol. 24 榎灘子神楽連面芝居用具

広報かすかべ 9 月号 幾久しく時を刻む記念時計

広報かすかべ 11 月号 憩いの広場 古利根公園橋の完成

令和 8 年

広報かすかべ 1 月号 年の始めの例とて、粕壁町商売繁栄双六

広報かすかべ 3 月号 宝珠花神社の富士塚の移転

広報かすかべ 5 月号 かすかべの文化財 vol. 25

広報かすかべ 6 月号 小湊の追分から見た歴史的景観

広報かすかべ 7 月号 郷土資料館の誕生

広報かすかべ 9 月号 60 年に 1 度の御開帳

（5）図書頒布

33 種類 80 冊を有償頒布



市指定無形民俗文化財「赤沼の獅子舞」

行間 小 中 大 背景 白 黒 青 文字 小 中 大

ホーム / 文化財課・郷土資料館

ほごログ (文化財課ブログ)

2025年6月の記事一覧

2025年6月 ▼ 1件 ▼

石造物部会の巡見（粕壁地区）を行いました

投稿日時 : 2025/06/13  文化財課 新井 カテゴリ:

6月12日（木）に春日部市市史石造物部会で粕壁地区の巡見をおこないました。

春日部市では令和5年4月より「第2次春日部市市史編さん事業計画（第2期）」を策定し、継続的な市史の編さんを進めています。令和6年2月には、この計画に基づき『春日部市史 自然誌編』を刊行しました。次は身近な歴史遺産である石造物編を刊行予定です。

今年度から石造物部会を立ち上げ、数年がかりのプロジェクトが本格的に始動しました。

まずは具体的な調査に入る前に、春日部市域にどんな石造物があるかを確認します。今回は市史編集委員の皆さまと粕壁地区の神社や寺院にある石造物を見て回りました。粕壁地区は神社や寺院の数が多く、その中でも特に石造物が集中しているところを厳選して巡りました。

午前中は、春日部八幡神社、春日部稲荷神社、浅間社に行きました。3社は隣接しており、それぞれに石造物が遺されています。春日部八幡神社には市指定文化財である都鳥の碑もあります。これは在原業平の隅田川おける伝承等を伝えるために嘉永6年（1853）に建立された石碑です。



午後は、日枝神社、八坂神社、東八幡神社、真蔵院、成就院、玉蔵院に行きました。
各地に庚申塔や記念碑など様々な石造物があります。東八幡神社の境内には江戸時代の有名な力持ちである三之宮卯之助の力石が奉納されています。



成就院には市指定文化財である見川喜蔵墓および見川家五輪塔があります。見川喜蔵は古利根川の洪水を防ぐために堤防などをきずいた人物です。



今回は巡見のほかに、郷土資料館所蔵の板碑を使って市史編集委員の先生に拓本の取り方を教えていただきました。



郷土資料館では7月6日（日）まで企画展示「発掘された板碑」を開催していますので、ぜひ足を運んでいただければ幸いです。

もし個人的に市内の石造物をご覧になる場合は所有者や周りの方へのご配慮をお願いいたします。

石造物部会では今後も他の地区を巡見しつつ調査の準備をおこなっていきます。

調査にあたりましては、所有者や関係者のご協力をいただきながら進めていきますので、どうぞよろしくをお願いします。

メニュー

文化財課・郷土資料館



指定文化財

イベント情報

年表普及版

市史のご案内

郷土資料館



郷土資料館あんない人
うめわかくん

ほごログFacebookページ
ほごろぐTwitter

COUNTER

8 1 9 4 0 2 0

ほごログ | 指定文化財 | イベント情報 | 市史のご案内 | 郷土資料館



春日部市教育委員会 文化財課・郷土資料館
文化財課 (048) 739-6811 〒344-8577春日部市中央7-2-1
bunkazai◆city.kasukabe.lg.jp (◆を@に変えて送信してください)
郷土資料館 (048) 763-2455 〒344-0062春日部市粕壁東3-2-15
kyodoshiryokan◆city.kasukabe.lg.jp (◆を@に変えて送信してください)



国特別天然記念物「牛島のフジ」

行間 小 中 大 背景 白 黒 青 文字 小 中 大

ホーム / 文化財課・郷土資料館

ほごログ（文化財課ブログ）



一覧へ

石造物部会の調査（内牧地区）を行いました

投稿日時：2025/12/09  文化財課 新井 カテゴリ:市史編さん

12月7日（日）に春日部市市史石造物部会で内牧地区の調査を行いました。

記念すべき第1回目の調査の対象地点は、原新田浅間神社と路傍にある六地藏です。当日は、神社を管理されている地区の方々も立ち会ってくださり、拝殿なども見せていただきました。

まずはじめに、対象の石造物に番号を振って調査の分担を決め、寸法の測り方や銘文の書き方などを確認します。調査対象が決まったら、2人1組で調査カードの作成と写真撮影を進めます。



▼文字が読みにくい部分は拓本をとって確認します。



▼高さ3メートルを超える鳥居も調査対象です。



▼六地藏



まだまだ始まったばかりで手探りな部分もありますが、調査員のみなさまと相談しながら進めたいと思います。今後も引き続きブログ等で石造物部会の活動を報告していきますので、よろしくお願いします。

※もし個人的に市内の石造物をご覧になる場合は、所有者や周りの方へのご配慮をお願いいたします。

ポスト

メニュー

- 文化財課・郷土資料館
- 指定文化財
- イベント情報
- 年表普及版
- 市史のご案内
- 郷土資料館



郷土資料館あんない人
うめわかくん



国指定史跡「神明貝塚」（調査風景）

行間 背景 文字

ホーム / 文化財課・郷土資料館

ほごログ（文化財課ブログ）

←
一覧へ

内牧地区の不動尊を調査しました

投稿日時：02/06  文化財課 新井 カテゴリ:市史編さん

春日部市と白岡市の市境付近にある、内牧の不動尊の調査を実施しました。

不動堂では、1月28日と7月28日に「不動様のお祭り」を行っています。今回は、1月28日のお祭りにうかがい、地域の方にお話を聞かせていただきました。

不動堂がある地区では、4つの組（上・中・古新田・下）が1年交替で当番をつとめ、掃除や準備を行い、お祭りの当日は不動堂に1日詰めて、参拝者を迎えます。参拝者は木製の剣を奉納します。

現在のお堂は平成4年に建て替えられました。お堂の中には寄付者の名前が書かれた額も飾られています。



翌29日には、不動堂の中にある石造物の調査を行いました。寸法を計測し、刻まれている文字を確認します。お堂の中にある石造物は、地区の皆さんによって大切に守られ、きれいに安置されています。



調査の成果は、春日部市市史石造物編に収録予定です。今後も各地の石造物を積極的に調査していきます。

※市内の石造物を見学される場合は、所有者やまわりの方へのご配慮をお願いいたします。

ポスト

タグ 石造物

メニュー

文化財課・郷土資料館



指定文化財

イベント情報

年表普及版

市史のご案内

郷土資料館





市指定無形民俗文化財「赤沼の獅子舞」

行間 背景 文字

ホーム / 文化財課・郷土資料館

ほごログ（文化財課ブログ）



一覧へ

石造物部会の調査（内牧地区・梅田神明社）を行いました

投稿日時：03/05  文化財課 新井 カテゴリ:市史編さん

2月28日（土）に春日部市市史石造物部会で内牧地区の調査を行いました。

今回の調査の対象地点は、梅田神明社の境内にある石造物です。当日は風もほとんどなく、暖かな日差しのおかげで、調査を進められました。

まずは調査対象の石造物を確認して分担を決め、寸法の測り方や拓本が必要な箇所を確認します。今回は調査員のみなさんが1人で数基ずつ担当して調査票を作成しました。

▼一基ずつ調査します



▼この手水石には年代や奉納者の名前が刻まれているのですが、肉眼では読みにくいので拓本をとります



▼狛犬の台座はとても大きいため、協力して寸法を計ります



調査後は、前回の調査で作成した調査票をもとに、入力方法や修正箇所を確認しました。実際に調査をはじめてみると、様々な課題が見つかります。何度も相談を重ねて、どのような形でまとめていくのがよいか考えます。

3月には内牧地区の別の神社の調査も予定しています。今後もブログ等で石造物部会の活動を報告していきますので、よろしくお願いします。

※もし個人的に市内の石造物をご覧になる場合は、所有者や周りの方へのご配慮をお願いいたします。

ポスト

タグ 石造物

メニュー

文化財課・郷土資料館

指定文化財

イベント情報

年表普及版

市史のご案内

郷土資料館



郷土資料館あんない人

うめわかくん

ほごログFacebookページ

ほごろぐTwitter

COUNTER

8 0 7 2 8 5 0

ほごログ | 指定文化財 | イベント情報 | 市史のご案内 | 郷土資料館

春日部市教育委員会 文化財課・郷土資料館

文化財課 (048) 739-6811 〒344-8577春日部市中央7-2-1



昭和55年春日部駅東口（かすかべデジタル写真館より）

行間 背景 文字

ホーム / 文化財課・郷土資料館

ほごログ（文化財課ブログ）



一覧へ

石造物部会の調査（内牧地区・鷺香取神社）を行いました

投稿日時：03/11  文化財課 新井 カテゴリ:市史編さん

3月8日（日）に春日部市市史石造物部会で内牧地区の調査を行いました。

今回の調査の対象地点は、鷺香取神社の境内にある石造物です。当日は強い風が吹き、何度か調査道具を飛ばされながらも、調査を行いました。

まずは調査対象の石造物を確認して分担を決め、拓本が必要な箇所を選定します。今回は計32基の石造物を調査しました。

▼鳥居も調査対象です。



▼台座の部分に奉納者の名前が刻まれているため拓本を採ります。石に紙を貼って水で濡らし、余分な水分をとって密着させます。



▼タンポで墨を打ちます。



▼名前がくっきりと浮かび上がります。



調査後は、作業データの整理の仕方や次回の調査日程などの打ち合わせをしました。

今回の調査で、内牧地区に6社ある神社のうち、半分の調査が終わりました。4月以降も定期的に調査を進めていきます。今後もブログ等で石造物部会の活動を報告していきますので、よろしくお願いします。

※もし個人的に市内の石造物をご覧になる場合は、所有者や周りの方へのご配慮をお願いいたします。

ポスト

タグ 石造物 神社

メニュー

文化財課・郷土資料館



指定文化財

イベント情報

年表普及版

市史のご案内

郷土資料館





郷土資料館の粕壁宿町並み推定復元模型

行間 背景 文字

ホーム / 文化財課・郷土資料館

ほごログ（文化財課ブログ）



一覧へ

石造物部会の調査（内牧地区・梅田雷電神社）を行いました

投稿日時：04/07  文化財課 新井 カテゴリ:市史編さん

4月2日（木）に春日部市市史石造物部会で内牧地区の調査を行いました。

新年度が明けて最初の調査です。今回の対象地は、国道16号沿いにある梅田雷電神社です。午前中に雨が降ってしまったため、開始時刻を遅らせて、午後から調査を行いました。

はじめに、調査対象の石造物を確認して分担を決め、1人で数基ずつ調査票を作成します。

地区の方々にも立ち会っていただき、拝殿の中も見せていただきました。また、石に刻まれた奉納者の名前の解読にもご協力いただきました。

▼境内には椿や桜の花が咲いていました。大きな鳥居も調査しました。



▼富士塚にある一つ一つの石造物を調査します。



▼この燈籠は一部が破損し、部材が近くにまとめて置かれています。今回の調査で、本来どのような形をしていたかがわかりました。



限られた時間でしたが、地区の方々や調査員の皆さまと協力しながらスムーズに調査を進めることができました。4月はこのほかにも梅田女体神社を調査する予定です。引き続きブログ等で報告していきますので、今年度もよろしくお願いします。

※もし個人的に市内の石造物をご覧になる場合は、所有者や周りの方へのご配慮をお願いいたします。

ポスト

タグ 石造物 梅田雷電神社

メニュー

文化財課・郷土資料館



指定文化財

イベント情報

年表普及版

市史のご案内

郷土資料館



郷土資料館あんない人
うめわかくん

ほごログFacebookページ
ほごろぐTwitter

COUNTER



市指定無形民俗文化財「宝珠花大風揚げ」

行間 背景 文字

ホーム / 文化財課・郷土資料館

ほごログ（文化財課ブログ）



石造物部会の調査（内牧地区・梅田女体神社）を行いました

投稿日時：04/21  文化財課 新井 カテゴリ:市史編さん

4月16日（木）、春日部市市史石造物部会で内牧地区の調査を行いました。

今回の調査の対象地点は、春日部中学校の近くにある梅田女体神社です。当日は朝まで雨が降っていましたが、調査開始時には日差しが戻り、予定通り実施できました。

梅田女体神社は、これまでの神社の中で最も多くの石造物があり、銘文の判読が難しいものも多いため、手分けして拓本をとりました。

▼水を使って石に紙を密着させ、拓本をとっていきます。





▼刻まれた奉納者の名前がきれいに浮かび上がります。



▼小さいものも拓本をとります。



▼ 3メートルを超える巨大な鳥居も採寸しました



内牧地区には6つの神社がありますが、今回をもって、すべての調査が完了しました。今後は寺院の石造物調査へと移ります。寺院の石造物はこれまでまとめた調査が行われておらず、配置図の作成から取り組む必要があります。神社よりも大変な点があると予想されますが、少しずつ進めていきます。

引き続きブログ等で活動報告をしていきますので、よろしくお願いします。

※もし個人的に市内の石造物をご覧になる場合は、所有者や周りの方へのご配慮をお願いいたします。

ポスト

タグ 石造物 梅田女体神社

メニュー

文化財課・郷土資料館



指定文化財

イベント情報

年表普及版

市史のご案内

郷土資料館





ブログ

←
一覧へ

📄
編集

石造物部会の調査（内牧地区・楽応寺）を行いました

投稿日時：05/15 文 文化財課 新井 カテゴリ:市史編さん

5月7日（木）に春日部市市史石造物部会で内牧地区の調査を行いました。

今回の調査の対象地点は、内牧公園の近くにある楽応寺です。

当日は地区の方も立ち会ってくださり、境内の石造物について教えていただきました。お堂の近くに置かれた庚申塔はかつて道辻にあったそうですが、道路を整える際に移設されたとのこと。地元の方々のお話は非常に重要な情報であり、とても勉強になります。

▼ 境内にある庚申塔



境内の奥のほうには、薬師如来の縁起が刻まれた大きな石碑があります。石の表面には、長い時間をかけて付着した苔や汚れがありましたが、文字を正確に読むために拓本をとることになりました。

▼ 3人がかりで汚れを落とします。

苔が残っていると、紙がうまく貼り付いてくれません。



▼水で紙を貼り付けます



▼余分な水を取ります



▼ タンボで墨を打ちます



▼ 完成了しました



今までの調査の中で最も大きな拓本です。拓本そのものも見応えがあるので、どこかで市民の方々にも見ていただく機会があればと考えています。

今月は他にも寺院や堂庵の調査を実施予定です。引き続きブログ等で報告していきますので、よろしくお願いいたします。

※もし個人的に市内の石造物をご覧になる場合は、所有者や周りの方へのご配慮をお願いいたします。

ポスト



市指定無形民俗文化財「宝珠花大風揚げ」

行間 小 中 大 背景 白 黒 青 文字 小 中 大

ホーム / 文化財課・郷土資料館

ほごログ（文化財課ブログ）

←
一覧へ

📎
編集

石造物部会の調査（内牧地区・藤盛稲荷神社、円乗院、梅田寺）を行いました

投稿日時：06/09  文化財課 新井 カテゴリ:市史編さん

6月4日（木）に春日部市市史石造物部会で内牧地区の調査を行いました。

今回の調査の対象地点は、藤盛稲荷神社、円乗院、梅田寺の3カ所です。台風6号の影響が心配されましたが、幸いにも天気が回復し、調査を実施できました。

まずは藤盛稲荷神社から調査します。当日は地区の方々も立ち会ってくださり、一緒に境内の石造物を確認しました。地区の方々は、5月頃に実施した事前調査の際もご協力くださり、お堂の中も見せていただきました。

▼【藤盛稲荷神社】手分けして調査を進めます。



▼【藤盛稲荷神社】拓本で手洗石に刻まれた文字を読み取ります。



次は円乗院の調査です。

▼【円乗院】よく見ると地藏尊の袖の部分にも文字が刻まれていました。



▼【円乗院】境内の六地藏には、それぞれに梵字が刻まれています。
調査員の皆さまに拓本をとっていただきました。



最後は梅田寺の調査です。

▼【梅田寺】1基ずつ寸法を確認します。



▼【梅田寺】上部が欠けてしまった記念碑です。
紙が乾燥しやすいため、上の方に布をかけつつ、下から墨を打っていきます。



気がつけば内牧地区の寺院の調査も、残すは香林寺のみとなりました。これもひとえに地区の方々や調査員の皆さまのご協力のおかげです。ありがとうございます。

今後の調査についても、引き続きブログ等で報告していきますので、よろしくお願いします。

※もし個人的に市内の石造物をご覧になる場合は、所有者や周りの方へのご配慮をお願いいたします。

ポスト

タグ 石造物 藤盛稻荷神社 円乗院 梅田寺

メニュー

文化財課・郷土資料館



指定文化財

イベント情報

年表普及版

市史のご案内

郷土資料館





市指定有形文化財「北条氏政の感状」

行間 背景 文字

[ホーム](#) / [文化財課・郷土資料館](#)

ほごログ（文化財課ブログ）



[一覧へ](#)

石造物部会の調査（内牧地区・香林寺）を行いました ～途中経過～

投稿日時：07/08  文化財課 新井 カテゴリ:市史編さん

6月11日（木）と7月2日（木）に春日部市市史石造物部会で内牧地区にある香林寺の調査を行いました。

香林寺は内牧地区の中で最も多くの石造物があるお寺で、複数回にわたり調査をさせていただいています。まだ途中ですが、現段階で調査対象としたものだけで40基近くありました。

▼江戸時代の立派な庚申塔があります。



▼高さ2メートル以上ある忠魂碑の拓本をとります。

紙が乾かないようにタオルで覆いながら墨をのせていきます。



▼ 忠魂碑の拓本が完成しました。



当日は、内牧地区で石造物の調査をされている内牧フォークロアの皆さんも立ち会ってくださいました。地域の方々にもご協力いただきながら、調査を進めていきたいと思います。

2回目の調査は、7月2日に実施しました。残念ながら天候には恵まれず、雨の中での調査となりました。

▼屋根があるところをお借りして、板碑の拓本をとります。



▼三脚に傘を付けて、雨をよけながら拓本をとります。



長い年月をかけてこびりついた苔や汚れによって、文字が読みにくい状態となっている石造物も少なくありません。職員も雨の中、苔まみれになりながら清掃しましたが、文字が読めるようになる瞬間はとても嬉しくなります。

香林寺の調査はもう少し残っていますので、追加調査をさせていただくことになりました。暑さが本格化する前になんとか終わらせたいと思います。またブログ等で報告しますので、よろしくお願いします。

※もし個人的に市内の石造物をご覧になる場合は、所有者や周りの方へのご配慮をお願いいたします。

ポスト

タグ 石造物 香林寺 拓本

メニュー

文化財課・郷土資料館

指定文化財

イベント情報

年表普及版

市史のご案内

郷土資料館



郷土資料館あんない人
うめわかくん

ほごログFacebookページ
ほごろぐTwitter

COUNTER

8 0 7 2 9 6 6

ほごログ | 指定文化財 | イベント情報 | 市史のご案内 | 郷土資料館



春日部市教育委員会 文化財課・郷土資料館

文化財課 (048) 739-6811 〒344-8577春日部市中央7-2-1

bunkazai◆city.kasukabe.lg.jp (◆を@に変えて送信してください)

郷土資料館 (048) 763-2455 〒344-0062春日部市粕壁東3-2-15

kyodoshiryokan◆city.kasukabe.lg.jp (◆を@に変えて送信してください)



昭和55年春日部駅東口（かすかべデジタル写真館より）

行間 小 中 大 背景 白 黒 青 文字 小 中 大

ホーム / 文化財課・郷土資料館

ほごログ（文化財課ブログ）



一覧へ

石造物部会の調査（内牧地区・香林寺）を行いました～3回目～

投稿日時：08/03 文 文化財課 新井 カテゴリ:市史編さん

7月21日（火）に春日部市市史石造物部会で内牧地区にある香林寺の調査を行いました。今回は3回目の調査で、これまでの調査で残っていた数基の拓本採取や採寸を行いました。

日差しが強く、かなり暑さを感じる中での作業となりました。

▼日陰を作りながら拓本をとっていただきました。



この石造物は今まであまり見たことがない形・内容をしていました。どんな由来のものなのか、拓本をもとにこれから分析をしていきます。明らかになるのが楽しみです。

今回をもって香林寺の調査は終了しました。30基以上の石造物の一つ一つに多くの情報が詰まっており、調査のしがいがある場所でした。悪天候による日程の変更や度重なる調査に快く対応してくださったご住職様をはじめ、関わってくださったみなさまに心から感謝します。

暑さが厳しくなってきましたので、外の調査は一旦お休みし、秋以降に再開する予定です。夏の間は、これまでの調査で作成した調査票などの整理や今後本格的に始まる路傍の石造物の調査の準備をします。

ブログ等でまた進捗状況を報告しますので、今後ともよろしくお願いします。

※もし個人的に市内の石造物をご覧になる場合は、所有者や周りの方へのご配慮をお願いいたします。

タグ 石造物 香林寺

メニュー

文化財課・郷土資料館

指定文化財

イベント情報

年表普及版

市史のご案内

郷土資料館



郷土資料館あんない人
うめわかくん

ほごログFacebookページ
ほごろぐTwitter

COUNTER

8 2 7 6 1 2 7

[ほごログ](#) | [指定文化財](#) | [イベント情報](#) | [市史のご案内](#) | [郷土資料館](#)



春日部市教育委員会 文化財課・郷土資料館

文化財課 (048) 739-6811 〒344-8577春日部市中央7-2-1

bunkazai◆city.kasukabe.lg.jp (◆を@に変えて送信してください)

郷土資料館 (048) 763-2455 〒344-0062春日部市粕壁東3-2-15

kyodoshiryokan◆city.kasukabe.lg.jp (◆を@に変えて送信してください)

かすかべ今昔絵巻

112 春日部駅西口の整備

春日部駅西口は、かつては、水田や湿地帯などが広がる土地でした。道路や側溝など都市基盤を整えるにあたっては、大量の土壌を埋め立て、固い地盤として整える必要がありました。

この土地基盤整備は、春日部駅西口の開発事業の推進を図るため、昭和37年（1962年）8月に設立された春日部開発公社により進められました。

整備事業は、昭和38年（1963年）9月から11月にかけて、春日部駅西側の2万5千坪の地域で行われました。

この時の埋め立てに使用された土壌は、大宮台地の最南端にあたる花積地区の住吉台（現在の住吉神社付近）から採取されました。

土壌の運搬にあたっては、国道16号から整備場所までの間に500メートルのダンプカー専用道路を設け、



花積地区（住吉台）での土壌の採取の様子
台地を削り大量の赤土が採取されました。

毎日、ダンプカー20台を使って運搬されました。（「広報かすかべ」No.81 昭和38年10月10日号）による。）

この土壌の採取により、花積地区の住吉台の景観は、台地から低地へと変貌しました。

昭和39年（1964年）12月には、春日部都市計画西



造成中の春日部駅西口の様子
写真右後方に春日部駅を望む。

部地区（第一）土地区画整理事務所が設置され、翌年の昭和40年（1965年）10月から、春日部駅西口周辺の街路や下水、側溝など都市基盤を整える事業が本格的にスタートしました。

図文化財課 ☎048-739-6811

かすかべ今昔絵巻

113 馬車鉄道の開通

今から132年前の明治26年（1893年）6/1、粕壁町（現春日部市）に馬車鉄道が開通しました。この馬車鉄道は、同年2/7に千住茶釜橋（現千住新橋とも付近）から越ヶ谷町（現越谷市）まで通じていた千住馬車鉄道が粕壁町の最勝院前まで延長されたものです。当初の計画では、明治22年（1889年）6月、千住と幸手間を結び鉄道として計画されていましたが、粕壁から幸手間は、普通の馬車で接続することになりました。

馬車鉄道とは、道路に線路を敷き、客車や貨物車を1頭ないし2頭の馬が引っ張る鉄道のことです。現在の路面電車に近い形態で、陸羽街道（江戸時



▲千住馬車鉄道、客車側面図
埼玉県立文書館収蔵 埼玉県行政文書 明1763

代の日光道中）を利用して線路が敷かれました。

粕壁から大沢、越ヶ谷、草加を経て千住茶釜橋に至るまで約3時間、運賃は1マイル（約1.6キロメートル）ごとに1銭5厘で、全区間で27銭でした。

明治30年（1897年）5月、千住馬車鉄道は、経営難のため、粕壁から大沢間の営業を取りやめ、同年7月には全線の営業を終えました。明治31年

（1898年）11月、千住から大沢間に新たに設立された草加馬車鉄道が営業を再開しましたが、明治32年（1899年）には、東武鉄道が北千住から久喜間で開通し、草加馬車鉄道もその翌年に廃業に至りました。

現在、往事の様子をしのぶレリーフが当時の面影として古利根公園橋に飾られています。



▲千住馬車鉄道レリーフ（古利根公園橋）

図文化財課 ☎048-739-6811

かすかべ今昔絵巻

114 春日部の文化財vol.24 榎崎子神楽連面芝居用具

今回は、7月に開催される民俗芸能のうち榎の榎子神楽に伝わる面芝居の用具類を紹介します。「榎崎子神楽連面芝居用具」は、昭和10年代後半に途絶えた「面芝居」に関係する面27点、衣装38点、幕4点、芝居台本8点からなる用具類です。

榎の榎子神楽は、正徳年間（1711年～1716年）に喜納連敗と五穀豊穡を願い、茨城県稲敷市の大杉神社から榎地区に伝えられたとの伝承があり、昭和57年（1982年）に庄和町（現春日部市）の無形民俗文化財に指定されています。

神楽や榎子以外にも面芝居も演じられていました。面芝居は、江戸の神楽師から、榎崎子神楽連に伝授されたものですが、用具類に記された年代に



▲「曾我物語」の朝比奈三郎の面

よると大正時代から昭和初期にかけて盛んに行われていたことがうかがわれます。

残念ながら現在は、県内でも面芝居に関わる伝承者は少なく、榎地区に伝わる「面芝居」の用具類を通じて、当時の状況を知ることができる唯一の



▲面芝居の衣装（打掛）

貴重な資料として、平成21年（2009年）7月21日に市指定有形民俗文化財に指定されました。これらの用具類は、現在、春日部市郷土資料館に寄託され、指定文化財展などの機会に公開されています。

図文化財課 ☎048-739-6811

2025 年（令和 7）9 月号

かすかべ今昔絵巻

115 幾久しく時を刻む記念時計

来月10/1は、旧春日部市と旧庄和町が合併し、新春日部市としてスタートしてから20周年を迎える記念すべき日となります。

旧春日部市は、昭和29年(1954年)に誕生し合併に至るまで51年余り、旧庄和町は、昭和39年(1964年)に町制を施行し合併に至るまで41年余り存続しました。

旧両市町とも、その時々の周年事業で式典を行い、シンボルとなる記念物を設置しています。今回は、その中でも今へつながら、未来へ時を刻むシンボルとしての時計について紹介します。

平成17年(2005年)3月末、春日部駅東口ロータリーに「市制施行50周年記念」を記念して時計が設置されました。基盤部分の石張りや本体のブロンズ塗装により東口周辺の彫刻などと調和のとれた装飾の時計として現在も時を刻んでいます。



▲市制施行50周年記念モニュメント時計
(平成17年4/18に除幕式が行われました)



▲町制施行30周年を記念して設置された花時計
(平成6年10/10に除幕式が行われました)



▲花時計の銘板

レジデンシャルパークSHOWA(庄和総合公園)には、平成6年(1994年)10月に庄和町が町制施行30周年を記念して設置した花時計があります。花時計の直径は6メートル、長針2メートル66センチ、短針2メートル18センチで、銘板には「花と緑の調和した快適で住みやすいまちづくりのシンボルとして幾久しく時を刻んでくれることでしょう。」と記されています。

現在、春日部市では、市制施行20周年を祝うため、さまざまな記念事業を実施しています。

また、「春日部に住んで良かった、住み続けたい」

と思えるまちを目指すことをテーマとして、市内公立中学校に通う中学生から募集を行い、600点以上の応募の中から、「かすかべ、あなたの好きが続くまち」をキャッチコピーとして遊び広くPRしています。

現在も時を刻む旧両市町の周年事業の記念時計も、間もなく20周年を迎える新春日部市を祝い、そして未来に向かって、「あなたの好き」がずっと続くよう時を刻み続けていくことでしょう。

図文化財課 ☎048-739-6811

2025 年（令和 7）11 月号

かすかべ今昔絵巻

116 憩いの広場 古利根公園橋の完成

41年前の1984年(昭和59年)11月、古利根川に架かる新町橋と春日橋の間に、「古利根公園橋」が完成しました。

主要部分の橋を埼玉県、公園となる部分の橋を市が造った全国的にも珍しい橋でした。

同月24日と25日、市は「古利根公園橋」の完成を祝い、パレードやテープカット、三世代の夫婦を先頭にしたり初め、御美の練り歩き、いかだ下り、ブロンズ像の除幕式、ミニSL、市民吹奏楽団やアマチュアバンドのコンサートなど盛りだく

さんの記念行事を開催しました。

この年は旧春日部市の30周年の記念の年にあたり、周年事業として、春日部駅西口ロータリーのケヤキの植樹も同時に行われました(今も記念碑が立っています)。

また、この時にケーキで製作された古利根公園橋の模型は、今も教育センターに展示されています。模型の背面には、製作者が、古利根川の思い出や新しく完成した古利根公園橋への思いを「うれしくて、うれしくて」(部分抜粋)と記したものがあり、完成当時からとても愛されていた橋であることを物語っています。



▲建設中の古利根公園橋
(下流に春日橋、埼玉橋を望む)



▲古利根公園橋のテープカットの様子
(1984年(昭和59年)11/24)

2016年(平成28年)3月には、LED照明によるライトアップなども施され、現在も市を代表する景観として、そして市民の憩いの広場として、親しまれ続けています。

図文化財課 ☎048-739-6811

2026 年（令和 8）1 月号

かすかべ今昔絵巻

117 年の始めの例として、 粕壁町商売繁栄双六

お正月の歌として、「年の始めの例として、終わらなき世のめでたさを、松竹たてて門ごとに、祝ふは今日こそ来しけれ」と歌われる有名な歌があります。この歌は、1893(明治26)年、官報3073号付録として告示された「小学校祝日大衆歌謡並集」にあるものです。一家団圓でお正月を迎えた楽しい情景が思い出されます。

今回は、この歌の世界にぴったりの、郷土資料館所蔵

の粕壁の商家ゆかりの双六を紹介します。この双六は、昭和初期に印刷されたもので、粕壁の商家が得意先や取引先に新年のあいさつとして配布したものです。

双六のマスは、「雲出し」から「上り」まで36マスあり、各マスには当時の粕壁の呉服店、洋服店、靴店、華屋店、食堂、酒店、時計店、医院、薬局、書店、印刷所、茶舗などさまざまな店が描かれ、広告にもなっています。

現在も続く老舗のお店、惜しまれつつなくなってお店など、粕壁町のお店の思い出や移り変わりがよく分かる資料となっています。

郷土資料館では、「武州粕壁町商売繁栄双六」と「粕壁町商売繁栄双六」という2種類の双六を収蔵しています。

武州粕壁町商売
繁栄双六(昭和初期) ▶
(郷土資料館所蔵)

新年にあわせて、郷土資料館展示室で双六を公開します。

ぜひご覧いただき、当時のお店のことやお正月の情景を思い浮かべ、今と昔を比べてみてください。



図文化財課 ☎048-739-6811

かすかべ今昔絵巻

118 ～宝珠花神社の富士塚の移転～

毎年5月に大風あげ祭りが行われる江戸川河川敷近くの宝珠花神社には、高さ約10メートルの「富士塚」(浅間山)がそびえています。

富士塚は富士山に見立てた小さな塚で、富士山まで行かなくても登山ができるようにしたものです。江戸時代に、関東地方の村や町では富士信仰が盛んになり、集団でお金を出し合って富士登山を行う富士講が各地でつくられました。富士塚は富士講の人々によって築かれたもので、市内には多くの富士塚が現存しています。

右の写真は、宝珠花神社にある富士塚の移転工事の風景です。宝珠花神社は、かつて神社ごと移転した歴史があります。庄和地域を流れる江戸川は、昭和22年(1947年)に発生したカスリーン台風の影響を受けて、大規模な堤防の拡張工事が実施されました。宝珠花神社もこの工事に伴い、昭和28年(1953年)に神社ごと現在の地に移り、同じ時期に富士塚も移転しました。これほど大きな富士塚が塚ごと移る例は大変珍しく、宝珠花に住む人々にとって、この富士塚がいかに大切にされてきたかが分かります。

富士塚には、富士山にちなみ高さを示す合目石を兼ねた石灯籠の他、頂上には「万延元年」(1860年)と刻まれた「浅間大神」が祀られています。

最初に富士塚を築いた人たち、そしてそれを守り受け継いできた人たちに想いをこめて、春日部で富士登山を体験してみたいいかがでしょうか。



▲宝珠花神社の浅間山工事(郷土資料館寄託資料)

図文化財課(☎048-739-6811)

かすかべ今昔絵巻

119 『かすかべの文化財vol.25』

今回は、西金野井香取神社ゆかりの市指定文化財をとおして、中世の郷村、金(野)井本郷や江戸川の開削について紹介します。

西金野井の香取神社の創建は未詳ですが、一番古い記録としては「徳治元年(1306年)3月17日に金井本郷の神田禰取大神が、破損した板屋を吹き替えた」という棟札が伝わります。

「金井本郷」は、現在の西金野井と千葉県野田市東金野井付近、「禰取大神」は、千葉県香取市にある下総国一宮の香取神社の祭神「経津主神」のこと

で、「かとり」→「かんどり」→「かじとり(禰取)」と転じて標記されたものと考えられます。

船を操ることにすぐれた神様として、利根川水系の舟運に携わる人々からの信仰を集めていました。

その後の元禄12年(1699年)の覚書によると、寛永17年(1640年)に、新利根川(江戸川)が開削され、神社の敷地が河川敷となり、代わりとして、翌18年(1641年)に下金野井村の土地が与えられたことが記されています。

なお同神社には、徳川家康から14代の家茂まで歴代将軍の朱印状も伝わり、その文面には、江戸川で分断される前の「金井郷」の地名が記され続けてきました。

それぞれ、中世の郷村、金(野)井本郷や江戸川の

開削と関係の深い神社の歴史を伝える資料として市指定有形文化財となっており、現在は、郷土資料館に預けられています。



▲西金野井香取神社の棟札

図文化財課(☎048-739-6811)

かすかべ今昔絵巻

120 小淵の道分から見た歴史的景観

春日部市は、今も昔も交通の要衝の地であり、重要な幹線となる道路が交差、分岐する土地です。今回は、その中で往時がしのべ、歴史的な景観の広がりを感じることができる小淵の道分を紹介します。

小淵の道分は、粕壁宿から新町橋を渡り日光道中を進んだ場所にあります。江戸時代、幕府が編さんした地誌「新編武蔵土記」には、「小淵村」の項で、村内を走る日光道が岡村で別れて下総国関宿城下に達する「関宿道」があることが記されています。この関宿道は、この小淵村の道分の分岐点から始まり、八丁目村、不動院野村など幸松地区を通り、幸手領の東縁(現在の

幸手市志新田付近)を北へ向かい、関宿城下へ至る行程でした。

その距離は約16キロメートルで、「西重八」という通称でも呼ばれています。

下の写真は、小淵村の道分の地点に現存する道しるべです。右の道しるべは、1709(宝永6)年に建てられ、「左 あふしう(奥州)道、右 せきやと(関宿)道」と記されています。左の道しるべは、1754(宝暦4)年に建てられた庚申塔で、正面に「青面金剛」、左側面に「左 日光道」と記されています。



小淵の道分にある道しるべ

関宿道は、粕壁宿と関宿を結ぶ重要な道でした。

この道分で、江戸と日光、奥州へと向かう日光道中、そして粕壁宿の北、最勝院などの寺院がある寺町から、春日部八幡神社を経て、岩槻城下へ向かう「岩槻道」とも接続します。

岩槻道は、古栗田川の自然堤防上を縫い、梅老伝説ゆかりの旧跡、古栗田川に掛けられた石橋「やじま橋」など、古道の景観が色濃く残る道です。また、戦国時代には、岩槻城を支配する後北条氏と関宿城を支配する奥田氏の攻防が春日部周辺の地で繰り広げられた古文書の写しも残り、関宿と岩槻を経由する春日部の立地の重要性がわかります。

小淵の道分からつながる道をたどり、地理的な背景、古跡や伝承、歴史的出来事など結び付けて、歴史的な景観に想いを寄せてはいかがでしょうか。

図文化財課(☎048-739-6811)

2026年（令和8）7月号

かすかべ今昔絵巻

121 郷土資料館の誕生

郷土資料館は、今から36年前の1990年（平成2年）7/20、教育センター1階に開館し、開館の式典では、同館の入り口前でテープカットが行われました。

また、開館を記念して「粕壁と円空」と題した特別展が行われ、開館日の翌々日には「埼玉の円空仏」と題した記念講演会も開催されました。

同館は開館以来、郷土資料の収集・保存、調査・研究、展示、学習支援（教育普及）、情報の発信などを通じて、春日部の歴史・文化を今に伝え、そして未来へと春日部の記憶と魅力を継承しています。

開館当時の入館者数を累計すると、2026年（令和8年）3月末現在で、約37万7千人余り、収蔵資料は約10万点にも上ります。

こうした取り組みの成果が積み重なり、2026年（令和8年）



▲郷土資料館開館式典の様子



▲開館時の展示解説の様子



▲開館時の講演会の様子

3/9付で、これまでの「博物館類似施設」から、博物館法に基づいた「登録博物館」となりました。

同館では、8/1日から9/6日まで、「春日部の古刹—小淵山観音院の円空仏群と文化財」と題した夏季の企画展を開催します（7面参照）。

夏季の企画展開催後、郷土資料館は、教育センター全体の再整備に合わせて、10/1休から休館します（16面参照）。休館中も電話などでの問い合わせが可能です。再開後は、郷土春日部の歴史や文化にさらに親しんでもらえるよう、さまざまな企画を実施していきますので、楽しみにしてください。



▲登録博物館認定証

図文化財課 ☎048-739-6811

2026年（令和8）9月号

かすかべ今昔絵巻

122 60年に1度の御開帳

今年、令和8年（2026年）は丙午の年です。十干と十二支を組み合わせた60年に1度のこの年は、古くから特別な年として知られています。

午年は、全国各地で普段は公開されていない観音菩薩像を特別に拝観できる「御開帳」の年です。これは一説によると、観音菩薩の尊像（守護する存在）が馬であることに由来すると言われています。例えば、埼玉県の秩父地域では、観音菩薩をまつる34の寺院（秩父札所）で12年に1度、一斉に御開帳を行う「午歳総開帳」が実施されています。この午年の巡りに合わせ、市内でも貴重な秘仏



◀市指定文化財「小淵山観音院に王門」

が公開されます。

小淵にある小淵山観音院では、9/19（土）～10/4（日）に、本尊「聖観音菩薩像」が特別に公開されます。同院は鎌倉時代中期の正暦2年（1258年）建立と伝わる古刹であり、本尊は60年に1度の丙午の年にのみ御開帳される秘仏です。この像は、平安時代ごろに制作されたと推定されており、「小淵山本尊記」には、利根川（現在の古利根川）の洪水で

小淵観音院円空仏群の特別公開

※年に1度の特別公開

同院には県指定文化財の「小淵観音院円空仏群」も伝来しています。本尊とあわせて円空仏も一堂に会します。

☎同課または小淵山観音院 ☎048-752-3870

※拝観料などの詳細は、観音院公式などで確認してください

観音院公式 ▶



この地に流れ着いたと記載されています。

次の御開帳は60年後です。この機会に、ぜひ春日部の歴史に触れる特別な体験を試してみませんか。

図文化財課 ☎048-739-6811

報告2 令和8年度事業計画について

【文化財担当 事業計画】

	事業の名称	実施時期	事業内容
審議会	市史編さん委員会	9月30日（水） 3月下旬	会議（年2回以内）、市史の方針や計画を審議
普及啓発	広報HP、教委HPほごログ	随時	今昔絵巻(5・6・7・9・11・1・3月)、普及啓発事業の募集等
	市史講座・地学さんぽ	10月3日（土） 11月4日（水）	市史自然誌編の現地見学会 地学さんぽ5～小湊河畔砂丘探求～（10月3日） 地学さんぽ6～大河古隅田川探訪～（11月4日）
	市史講座・石造物入門講座	2月20日（土）	石造物調査に合わせた講座、郷土資料館の歴史文化講演会と共催
	市史の頒布	通年	市役所、教育センター（リニューアル工事のため10月以降は休止）、庄和総合支所、ぷらっと春日部、道の駅庄和で頒布
調査	市内石造物調査	通年	市史編さん事業計画に基づく調査（年間18回程度）
	歴史的公文書等の収集	通年	歴史的に重要な公文書の収集、保管、整理
	行政作成物の収集	随時	庁内等で作成した計画書やポスター等の収集
団体	埼玉県地域史料保存活用連絡協議会	通年	総会、実務研修会、主管課長等研修会、視察研修会



地学さんぽ5

～小淵河畔砂丘探求～

日時：10月3日（土）13：00～16：00頃

※荒天時中止

場所：北春日部駅東口～浄春院～小淵山観音院（約4.7 km）

内容：北春日部駅東口から浄春院付近の河畔砂丘の景観を
巡り、小淵山観音院へ至るフィールドワークを実施。
砂丘形成や大落古利根川の変遷について、市史自然
誌編執筆者の解説と共に巡ります。

対象：20人（抽選）

※小学生の参加の場合、保護者同伴

費用：無料

※ただし、開催中の観音院御本尊開帳の拝観を
希望する場合は、別途拝観料が必要です。

申込：8月28日（金）～9月15日（火）直接または電子申請にて

お問い合わせ先

春日部市教育委員会 文化財課
〒344-8577 春日部市中央七丁目2番地1

TEL.048-739-6811

電子申請はこちらから →



地学さんぽ6

～大河古隅田川探訪～

@古隅田公園竹林

目 時：11月4日（水）13：00～16：00 頃（荒天時中止）

内 容：豊春駅から古隅田野鳥の森、古隅田公園、対岸のさいたま市側の歩道を歩き、かつて大河であった古隅田川と現在の古隅田川の川幅を体感するフィールドワーク（市史自然誌編執筆者による古隅田川の解説や歩測体験など）を実施（約3.7KM）

対 象：20名（抽選）※小学生の参加の場合は、保護者同伴

費 用：無料

申 込：9月29日（火）～10月21日（水）

電子申請、電話または窓口申請（市役所4階 文化財課）



電子申請



市公式 HP

お問い合わせ先

春日部市教育委員会 文化財課
〒344-8577 春日部市中央七丁目2番地1

TEL. 048-739-6811



春日部市

その他

(1) 第2次春日部市市史編さん事業計画（第2期）について

【計画を見直す時期】

・ 2027年(令和9年)

【見直す内容について（事務局案）】

- ・現在実施している石造物調査の進捗状況に合わせて、実行性のある計画の見直しを行う。
- ・循環型マネジメントサイクル（PDCA サイクル）に基づき、点検評価を実施して、計画の見直しを図る。
- ・調査の結果として、刊行物の作成を目指す。
- ・石造物編について、春日部地域の全ての調査完了にあわせてではなく、地区単位での成果を刊行物として作成する。
- ・石造物など地域に根差した地域資料については、できるだけ地域へ還元する。
（地区公民館との連携した事業（例 地区公民館での文化祭出店など）
- ・春日部市文化財保存活用地域計画の理念に基づき、市民と連携した調査を計画していく。

第2次春日部市市史編さん事業計画
(第2期)

令和5年4月20日

春日部市教育委員会

1. 計画策定の背景と目的

平成29年（2017年）5月24日に策定しました「第2次春日部市史編さん事業計画」（以下、「事業計画」という。）では、おおむね5年ごとに計画を検証し、見直しを行うこととしています。

これにより、本計画を策定してから5年目を迎えた令和3年度（2021年度）には、春日部市市史編さん委員会、および春日部市市史編集委員から事業計画の見直しについて意見聴取を行いました。

また、令和4年度（2022年度）は、市の将来像の実現に向けた基本目標を定める「第2次春日部市総合振興計画後期基本計画」や「春日部市文化財保存活用地域計画」の策定を進めており、当該事業計画との整合性を図る必要があります。

市史編さんの取組みについても、郷土の歴史と文化遺産の保存と活用を推進するため、これらの計画との連携・整合性を図り「第2次春日部市市史編さん事業計画（第2期）」を策定します。

2. 市史編さんの趣旨

(1) 地域文化の現状と課題

本市には、旧石器時代から今日まで約3万年にもおよぶ長い歴史があり、遺跡や建造物など、地域の特性を示す貴重な文化遺産が数多く伝えられています。また、都心への通勤圏にありながら、水田や屋敷林が広がる水と緑豊かな田園都市として、特徴的な景観と自然環境にも恵まれています。

しかしながら、近年は開発や急激な都市化によって古くからの集落の景観や街並みが急速に失われ、多くの文化遺産が滅失の危機にひんしています。加えて、新しい住民が増加し、従来からの住民にあっても世代交代によって生活様式の変化が起こり、親から子、そして孫へと受け継がれてきた地域文化の継承が困難になりつつあります。さらに、神楽や獅子舞といった無形の民俗文化財も、後継者不足により存続が危ぶまれています。

また、令和2年(2020年)1月より世界的に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症に係る公文書などについても、歴史資料として保存する必要があります。

本市では、市史の編さんをとおした市の歴史や文化を継承していくため、これまでの市史編さんで収集した地域資料を後世に引継ぐための整理・保存を進めるとともに、これらの積極的な公開・活用の取組みが課題となっています。

(2) 経緯

本市における市史編さん事業は、平成17年度(2005年度)の合併前の春日部市では、平成9年度(1997年度)に終了しました。また、合併後、庄和町史を引き継いだ第1次春日部市史編さん事業計画が平成27年度(2015年度)に完了しました。そして、平成29年度(2017年度)に第2次春日部市史編さん事業計画を策定しました。

(3) 目的

本市は、市史編さんを進める上で課題となっています市の歴史的・文化的特性の継承と地域資料の整理・保存、そして公開・活用の実現に向けて、次の六項目を市史編さん事業の目的とします。

第一 市の発展とともに市の歴史が続くという基本理念のもと、継続性のある市史編さんを進めます。

第二 市域の歴史を明らかにし、市史編さんの成果である刊行物の発行を進めるため、

総合的な郷土研究に取り組みます。

第三 市の歴史を物語る地域資料の散逸や滅失を防ぐとともに、新たな地域資料の発見に努め、後世への継承と公開・活用のための整理・保存を進めます。

第四 市域の歴史を検証し、市史編さんの成果について I C Tなどを活用し、公開・周知を進めます。

第五 本事業をとおして広く市民の郷土への愛着と理解を深め、地域文化の継承を進めます。

第六 本事業で収集した地域資料を郷土学習や地域学習の素材として提供し、まちづくりなどへ寄与するための活用を進めます。

3. 市史編さんの基本方針

本市は、市史編さん事業計画（第2期）で掲げた目的を確実に実施するために、次の九項目を市史編さんの基本方針とします。

- （1）歴史や文化を正確に継承するため、市史編さんをとおして市の歴史を明らかにします。
- （2）史実に立脚し、客観的、かつ、公正・中立な編さんを行い、市民などの理解と関心が深められる内容とします。
- （3）分かりやすく親しみやすい市史刊行物にするため、平易な文章で記述し、写真・図表などを活用します。
- （4）本事業で収集する地域資料を確実に整理・保存を進めます。
- （5）歴史資料として重要な公文書を学術、文化などの調査研究に活用するとともに、市の歩みを傍証する資料として適切に収集を進めます。
- （6）市史編さんで収集した地域資料を後世に適切に継承するため、デジタル化をはじめ、多様な媒体により適切に保存を進めます。
- （7）災害などによって地域資料が被災した場合は、文化財の指定・未指定に関わらず、その救済を図ります。
- （8）市史編さんの成果については、市公式ホームページや広報紙などの公開をとおして、様々な学習機会へ提供します。
- （9）市史の刊行物をとおして、郷土愛の育みと理解を深めるため、広く啓発を進めます。

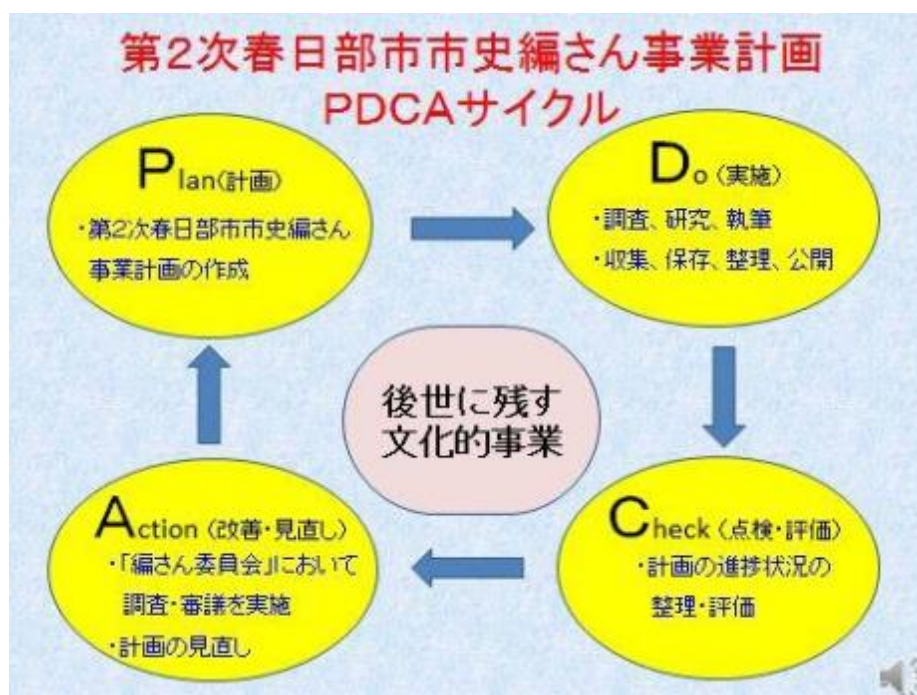
4. 市史編さん基本計画

(1) 事業期間

事業期間は平成29年度（2017年度）から令和23年度（2041年度）までの25年間とします。ただし、資料の収集状況や資料調査の進捗状況などを勘案し、おおむね5年ごとに計画を検証し、見直しを行います。

(2) 事業計画の進捗管理について

本事業計画の進捗管理については、「春日部市市史編さん委員会」において、年度ごとに進捗状況を把握した上で、計画の進捗に対する意見を聴取します。そして、「春日部市総合振興計画」や「春日部市文化財保存活用地域計画」をはじめ、庁内計画との整合性を図り、循環型のマネジメントサイクル（PDCAサイクル）に基づき、計画の進捗管理を図ります。



(3) 市史の基本構成

市史の基本構成は、資料集、本編（通史）、別編および普及版の3部構成とし、別編は必要に応じて随時刊行します。

(4) 資料集

①資料集の構成・内容

資料集は、地域資料を詳細、克明に掲載し、その理解を深めるため、写真・図表・解説などを加えます。

資料集の構成は、次のとおりとします。

- ・石造物編
- ・絵馬編
- ・民俗編
- ・考古資料編
- ・中世・近世編
- ・近代・現代編

②時代区分

時代区分は、次のとおりとします。

- | | | | |
|--------|-----------|-------------|------------|
| ・原始・古代 | (平安時代末まで) | 旧石器時代～1180年 | 源頼朝挙兵まで |
| ・中世 | (鎌倉・室町時代) | 1180～1590年 | 徳川家康関東入部まで |
| ・近世 | (江戸時代) | 1590～1867年 | 大政奉還まで |
| ・近代 | (明治～戦前) | 1867～1945年 | 太平洋戦争終結まで |
| ・現代 | (戦後社会) | 1945～ | 現代編の取上時期まで |

(5) 本編（通史）

本編は、市域の原始から現代までの通史とし、収集した地域資料や刊行した資料集などを分析・検討した研究成果の集大成とします。

(6) 別編および普及版

別編は、本市の歴史、風土、人々の生活を取り巻く特徴的な分野について、調査し編さんします。また、普及版は、資料集、本編や別編の成果を写真や図表などを使用し、分かりやすく親しみやすい内容とします。

(7) 各編の体裁

刊行物の体裁は、内容に応じた判型などとし、執筆要項により詳細を取り決めます。

(8) 市公式ホームページ、その他の媒体による周知・情報発信

- ・ 年表普及版は、令和7年度（2025年度）に新市20周年を迎えるため、20年間の歩みをまとめた年表を市公式ホームページで公開します。

また、現在公開している年表については、年次的な事象を随時加筆し、市公式ホームページ、その他の媒体で最新情報を公開します。

- ・ 新たな地域資料を見出した場合は、市公式ホームページで公開します。

(9) 計画（詳細は別表による）

年 度	事業内容	西 暦	備 考
平成 2 9 年度	資料整理	2 0 1 7	
平成 3 0 年度	調査・資料整理	2 0 1 8	
令和元年度	調査・資料整理	2 0 1 9	
令和 2 年度	調査・資料整理 年表編公開	2 0 2 0	
令和 3 年度	調査・資料整理	2 0 2 1	
令和 4 年度	調査・原稿執筆（自然誌編） 資料整理・計画の見直し	2 0 2 2	
令和 5 年度	自然誌編刊行	2 0 2 3	
令和 6 年度	調査準備（石造物）	2 0 2 4	
令和 7 年度	調査 「新市 2 0 年間の歩み」公開	2 0 2 5	新市 2 0 周年
令和 8 年度	調査	2 0 2 6	
令和 9 年度	調査・計画の見直し	2 0 2 7	
令和 1 0 年度	調査	2 0 2 8	
令和 1 1 年度	調査	2 0 2 9	
令和 1 2 年度	調査	2 0 3 0	
令和 1 3 年度	調査・原稿執筆（石造物）	2 0 3 1	
令和 1 4 年度	調査・石造物編刊行 計画の見直し	2 0 3 2	
令和 1 5 年度	調査準備（絵馬）	2 0 3 3	
令和 1 6 年度	調査	2 0 3 4	
令和 1 7 年度	調査	2 0 3 5	新市 3 0 周年
令和 1 8 年度	調査	2 0 3 6	
令和 1 9 年度	調査・計画の見直し	2 0 3 7	
令和 2 0 年度	調査	2 0 3 8	
令和 2 1 年度	調査	2 0 3 9	
令和 2 2 年度	調査・原稿執筆（絵馬）	2 0 4 0	
令和 2 3 年度	調査・絵馬編刊行 計画の見直し	2 0 4 1	

5. 市史編さん事業の組織体制

(1) 市史編さん委員会と市史編集委員

市史編さん事業を円滑に推進するため、市史編さん委員会、および市史編集委員を設置します。

構成や任務は、以下のとおりとします。

名 称	構 成	任 務
春日部市市史編さん委員会	社会教育委員 文化財保護審議会委員 学校関係者 学識経験者 公募に応じた市民 (10名以内)	教育委員会の諮問に応じ、市史編さん事業に関する基本方針および基本計画について審議します。
春日部市市史編集委員	監修者(1名)	市史に関する調査、執筆、編集の指導および助言を行います。
	編集員(8名以内)	市史の調査、執筆および編集を行います。
	調査員(30名以内)	編集員の指示に従い、市史の調査および執筆に当たります。
	特別調査員(30名以内)	編集員及び調査員の指示に従い、市史の資料収集、調査および執筆に当たります。

(別表)第2次春日部市市史編さん事業計画にかかる工程表

	H29	H30	H31	R01	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	R09	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
第2次市史編さん計画																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
計画策定	第1期											第2期											第3期						第4期						第5期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

凡例

◎ 歴史約公文書の1次ならびに2次選別を実施

○ 歴史約公文書の1次選別を実施